

けいすい

梅雨時期の学校生活について

How should we spend our school days during the rainy season?

6月は梅雨の季節ということもあり、何となくすっきりとしない毎日です。これからが梅雨本番となってくるのですが、気の早い私は今年の梅雨明けのことが気になります。気象庁の速報値では今のところ北部九州の梅雨明けは7月19日頃だそうです。あとひと月は雨の日の過ごし方を考えた生活が続くそうです。雨の日が続く梅雨の時期、学校生活で気を付けることはどんなことでしょうか。

まず、一番気になるのは登下校です。傘をさしての登校は通常よりも視界が狭くなり、車の発見が遅くなります。いつも以上に交通安全に注意が必要です。また、傘についてのトラブルも聞かれます。「傘で遊んで壊しました」「傘でたたいてけがさせました」等です。学校でも事前に指導をしていますが、家庭でも登下校について声をかけてください。

次に、学校生活では室内での過ごし方に注意が必要です。雨のため外で遊べなくなることから、いつもよりたくさんの方が校舎内で生活することになります。走りまわったり、大声でさわいだりすることのないように指導をしています。

日照時間の不足は、ビタミンD不足やセレトニンの減少による自律神経の乱れにつながるそうです。梅雨時期の貴重な晴れの日を大切にこれからの約ひと月を過ごしていきたいと思いません。

こえていく！

子どもたちが抱える課題編
Overcoming the problems
Children face

文部科学省は2026年現在の子どもを取り巻く社会状況について次のように述べています。

「少子化の加速と多様化により、子ども一人ひとりの存在の重要性が増している一方で、不登校や格差の拡大など、子どもたちの心身を脅かすリスクはかつてないほど複雑かつ深刻化している」「特に注視しているのが、子どもたちの精神的・環境的リスクの高止まりである。」

不登校の増加、いじめの重大事態の発生件数の増加、体験格差の広がり、ケアが必要な子どもの増加など、これまで課題となってきたことがより深刻化してきているということです。

子どもたちが抱える問題が多様化・深刻化する中で重要になってくるのが「地域や家庭、福祉と連携した切れ目のない支援」です。これは文科省とこども家庭庁が最重要テーマとして掲げていることでもあります。学校だけで子どもを抱え込まずに、「福祉や地域、データも総動員して生まれてから社会人になるまで一貫して支えていこうとする仕組み」をつくることを国は目指しています。

北小学校でも、学校だけではなくみんなで子どもたちを支えていけるように各種専門機関と連携を図っています。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも連携して、教育相談等も実施しています。子どもたちのことで気になることがありましたら学校までご相談ください。

北小 ～まなびの部屋～

This corner is a corner that introduces the classes state at Kita Elementary School

4年2組の内田先生の授業の紹介です。授業内容は国語の授業「わたしのクラスの生き物かん」というもので、自分が見つけた生き物の不思議をリーフレットに書くという活動です。教科書にリーフレットの見本が載っていますが、子どもたちにとってはどんなものか分かりにくいものです。そこで内田先生は実際にリーフレットの見本を自分で作り、子どもたちに示していました。教科書ではリーフレットとはどんなものかイメージしにくかった児童も、リーフレットが一枚の紙に見やすくまとめられたものであることを具体的に理解することができていました。今回の学習のように、この学習でどんなことを学習するのか、ゴールはどこかを児童自身が知り、計画的に学びを進めることが主体的な学ぶ態度を育成する上でとても大切です。教材の研究がしっかりとなされ、計画的に進められた授業でした。



左の見本を参考に
子どもたちは自分たち
で書くことできていま
した。

